塗装会社の挑戦 Vol.30

塗魂ペインターズ

塗装ボランティア、230社加盟

13年目でNPO法人に

10月5日、「塗魂（とうこん）ペインターズ全国会議ｉｎ横浜」が開催された。塗魂ペインターズとは、全国の塗装会社が加盟するボランティア団体。10月1日にＮＰＯ（特定非営利活動）法人になった。前年から26社増えて現在は約２３０社が加盟。１６０カ所でのボランティア活動の実績がある。開催場所である横浜の地に、全国から加盟している塗装会社の社長や協賛メーカーなど約３００人が集結。過去最大規模での開催になった。

▲塗魂ペインターズ全国会議in横浜に参加した、塗魂ペインターズメンバーと関係者の集合写真。300人を超える参加があった
◀来年の全国会議の開催を担うにあたり、神奈川エリア長の相馬純社長（左）から団旗を受け取る青年部の丸山源太社長

三代目への移行発表

同団体は２０１０年に発足し、今回が13回目の開催になる。今回の主催は神奈川エリアのメンバーだった。エリア長である相馬工業（神奈川県平塚市）の相馬純社長は、会議のテーマを「繋ぐ想い、新たなる想い」であると発表し、「現在まで一番大きい規模で全国会議を開催することができました。若手中心で全て作りました」と語った。

次に会長であるミヤケン（群馬県前橋市）の宮嶋祐介社長が登壇。参加者へのお礼を述べた後、「塗魂家族のみんな、会いたかったなあ」としみじみと語ることから3つの発表を行った。

１つ目は、今年の同団体の目標について。北海道から沖縄まで日本全国たすきボランティア活動を実施すると発表。「昨年は日本全国13拠点でのボランティアを実施しました。２０３０年には日本全国１０００社の加盟する団体になることを目指します」

２つ目は、10月1日にＮＰＯ法人化したこと。法人化の理由は、団体の活動を社会により認めてもらうため。「公の団体として世の中にインパクトを与えるために法人化をしました。今後はより活動の幅を広げ、社会に貢献していきたいです」と希望を語った。

最後に、数分間の沈黙ののち、今期で二代目会長を退くことを涙ながらに報告。「塗魂ペインターズが未来を反映するためにも、三代目へとバトンをつないでいきます。２０２４年10月10日、三代目の継承式を行います」と宣言した。

▲会長を退任することを発表するにあたり、声を詰まらせる宮嶋祐介会長

▲新加入企業を代表して挨拶するフクモト工業（福岡県宗像市）の福本満寿男社長（右から2人目）。「おやっちゃん」と喝采を浴びた

顧客ターゲットが変化

来賓代表挨拶はアステックペイント（福岡県福岡市）の菅原徹社長らが行った。菅原社長は過去1年間のマーケティングが厳しい状況だったことを報告。その理由として、これまでの顧客のメインターゲットだった団塊の世代が高齢者になったことで消費に消極的になり、メインターゲットが団塊ジュニア世代に変わりつつある、と説いた。「就職氷河期世代で、主にローコスト住宅を購入した世代が今後のターゲット。営業スタイルの変化が必要になります。塗装会社と協賛メーカーが協力して、時代の変化を乗り切り、ボランティア活動を継続できることを目指したい」

▲今後訪れる市場の変化について語ったアステックペイントの菅原徹社長

次に、青年部の就任式が行われた。部長に任命されたのは、ビルドアート（神奈川県伊勢原市）の丸山源太社長だ。半年前に青年部が発足し、１００社ほどが入部した。「年に1度全国ボランティアを青年部主体で開催します」と宣言をした。

その後、全国のボランティア活動の様子が動画で伝えられた。動画の中で九州エリア長のヌリケン・プラス（長崎県長崎市）の萩岡幸洋社長は、「ボランティアも好きですが、塗魂家族と会うことで、日ごろの疲れが癒されます」と語った。昨年行われたボランティアは例えば、北海道エリアでは札幌市円山動物園で、静岡エリアでは海に近い小学校のウミガメ飼育小屋での塗装があった。

最後は参加者が一体となってテーマソングを合唱した。会を締めくくったのは、副会長である成田塗装（大阪府寝屋川市）の大倉達也社長だ。「仕事でもプライベートでも一人で悩まず、兄貴、兄弟と笑って泣いていばらの道を歩いていきたいです」

【リポート／編集部　町野百合香】

HISTORY

160カ所で奉仕 活動領域は海外へ

塗魂ペインターズは2010年に発足した。当初は30社だったのが、1年後に100社へと急拡大。現在は約230社に増加した。協賛企業も塗料メーカーをはじめ23社に及ぶ。活動領域も全国に広げ、160カ所で奉仕活動を行ってきた。毎年10月5日（とうこんの日）に全国会議を開催している。

ボランティア現場は地域の学校や公園、福祉施設など。震災後の2012年には宮城県女川町の仮設住宅に断熱塗料を塗布するなど、「塗装でできる社会貢献活動」を実践している。国内だけにとどまらず、兄弟組織「塗魂インターナショナル」を結成し、海外でも活動。2017年にはリトアニアにある杉原記念館の修繕を手掛けた。外交官だった杉原千畝が戦時下で多くのユダヤ人を救う「命のビザ」を発給した歴史的建造物を蘇らせた。

こうした活動を行うことで業界のイメージアップにつなげる。さらに加盟企業同士で経営ノウハウを共有するなどして、業績面でもプラスになっている会社が多い。

◀8月に行った松戸市立河原塚小学校の遊具の塗装

団体の前身は日本ペイントと施工業者が一体となって事業をしていく営利目的の組織だった。だが、事業規模や地域、塗料、価格が異なるなどの理由で足並みがそろわず、解散を視野に入れたとき、当時の事務局長の池田大平氏（愛知県春日井市、麻布の社長）が「皆でボランティアをやろう」と提案したことをきっかけに発足した。初代会長は安田塗装（東京都豊島区）の安田啓一社長が務め、2016年に宮嶋会長の下で二代目がスタートした。